

(3) 読書に親しもう

急激に変化する時代において、読解力や創造力、思考力、表現力等を養う読書活動の推進は不可欠です。子どもたちは、読書を通じて多くの知識を得たり、必要とされる資質・能力を育み、多様な文化への理解を深めたりすることができます。

本県においては、「1日20分読書」運動を進めています。

「1日20分読書」運動とは

「1日20分読書」運動とは、「全ての子どもが1日に少なくとも合計で20分程度の時間を読書に親しみましょう」という運動です。



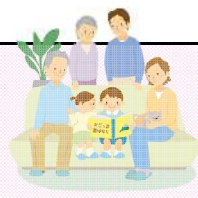
家庭における子どもの読書活動の推進

1 子どもの読書活動の推進における家庭の役割

子どもの読書活動は、日常生活を通して形成されるものです。

読書が生活の中に位置付けられ継続して行われるよう、子どもにとって身近な存在である保護者が、積極的に読書に親しむとともに家族全員で本を読む習慣をもつことが必要です。

また、家庭における読書は、1冊の本をもとに親子で感じたことを語り合い、親子の絆を深めるためにも重要です。そのためには、静かな環境をつくって読み聞かせをしたり、家族で好きな本について語り合ったり、図書館に出向いたりするなど、子どもの読書に対する興味や関心を高め、発達段階に応じて「心に残る1冊の本」と巡り会えるように働き掛けることが望まれます。



2 家庭での実践

- (1) 「1日20分読書」運動への取組を推進します。
 - (2) 我が家の「読書の日」、「読書の時間」等を設定し、家族みんなで読書に取り組みます。
- ※ 「絵本や物語を読んでもらって」を合い言葉に、「心に残る1冊の本」に出会えるように取り組みましょう。

教えて！Q&A



家庭では、具体的にどのような取組を行ったらいいでしょうか。

親子で読書をする時間を作るといいですね。例えば、読み聞かせをしたり、同じ時間に同じ場所でそれぞれ読書を楽しんだりなど…。静かな環境の中で、一緒に過ごす時間を大切にしてください。

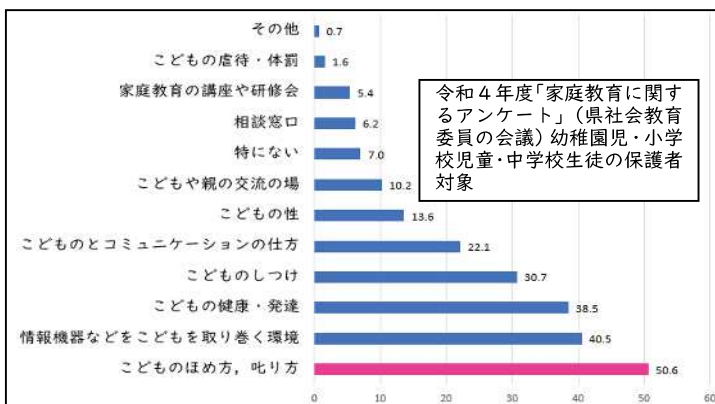


(4) ほめ方・叱り方

「ほめ方、叱り方」は、親（保護者）が家庭教育について知りたい情報のベスト3に入っています。

「なぜ、ほめるのか、叱るのか」という問いに対して、やはり「こどもの成長を促すため」という答えが多いのではないのでしょうか。

こどもを健やかな成長へ導くための「ほめ方、叱り方」には、以下のようなポイントがあります。



◇ ほめ方のポイント

- ① 何がよかったか、できたか、具体的にほめる。
- ② 結果だけでなく、その過程もほめる。
- ③ 率直な思いや感動を伝える。

ほめるときは・・・

- 「うれしい！」と、こどもが思っている瞬間にほめる。
- ※ 「ありがとう」「助かる」は最高のほめ言葉です。
- 何も言わずに、ぎゅーと抱きしめてほめる。

◇ 叱り方のポイント

- ① 人間性を否定しないように具体的に叱る。
- ② 一貫性をもって叱る。
- ③ 成長を促すために叱る。

叱るときは・・・

- 自尊心を傷つけるので、人前で叱らない。
- こどもの話をよく聞き、間違った「行い」には、何が良くなかったのか理由を伝える。

間違った言動は、しっかりと叱ろう！

叩く、殴る、食事を与えないなどの行為は、『虐待』になります。

（※ 児童虐待の防止等に関する法律、児童福祉法）

◇ 使ってみて！世代別学習プログラム

P T Aや家庭教育学級で、「こどものほめ方、叱り方」について、学習してみたいときは、子育て世代の学習プログラム『「ほめ方」・「叱り方」の極意とは？ ～子どもの個性理解～』があります。

右の二次元コードから、ワークシートと展開例をダウンロードして御活用ください。



「使ってみて！
世代別学習プログラム」

教えて！Q&A



こどものできないところが気になり、つい叱ることが多くなりました。どうすればよいのでしょうか？

できることのハードルを少しさげてみてはどうでしょうか。また、できないことを一緒にしてあげることも大切です。こどもは、親（保護者）に助けを求めていることもあります。

